

外國ニ在ル者召集ノ通報ヲ受ケ又ハ其ノ他ノ手續ニ依リ充員召集若クハ後備軍召集ノ舉アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ本籍地到着後二十四時以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百五十二條 第一補充兵兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百五十三條 第一補充兵ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並ニ之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第二百五十四條 補充兵ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戶籍ヲ轉換シタルトキハ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若クハ踪跡ヲ知得シタルトキ亦同シ但他ノ聯隊區ニ戶籍ヲ轉換シタルトキハ新舊所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百五十五條 補充兵重罪輕罪罰金ヲ除クノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ期シ其ノ戶主本人戶主ナレハ家族ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ届出ヘシ中家事ヲ擔當スル者

家族ナキ者ニシテ前項ノ事故ヲ生シタルトキハ市町村長ヨリ聯隊區司令官ニ通知スヘシ

第二百五十六條 第四百九十九條第三項但書第一百五十一條第一項及第三項第一百五十二條乃至第一百五十五條ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
第二百五十七條 第五百一十一條ノ通報人正當ノ事由ナクシテ召集ノ命ヲ通報セス若クハ其ノ通報ヲ遲緩シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六章 雜則

第一百五十八條 一年志願兵、六週間現役兵及屯田各兵科下士兵卒ノ服役ニ關シテハ



別ニ定ムル所ニ依ル

第百五十九條 一年志願兵ヨリ豫備役ニ轉入シタル士官、准士官及下士兵卒ノ豫備役後備役服役年期ハ一年志願兵條例ノ規定ニ依ル

第百六十條 士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及見習軍吏ニシテ各兵科各部ノ下士ニ任セラレ又ハ兵卒ト爲リ豫備役ニ編入セラレタル者ハ其ノ編入年ノ十二月一日ヨリ起算シ七箇年四箇月間豫備役ニ豫備役終ルノ後五箇年間後備役ニ服セシメ後備役終ルノ後ハ第一國民兵役ニ服セシム

第百六十一條 本條例中特ニ下士兵卒雜卒職工ヲ包ノ服役期限ヲ定メサルモノハ總テ徵兵令ノ規定ニ從フモノトス

第百六十二條 現役豫備役將校、同相當官一年志願兵ヨリ豫備役將校同ニシテ服役相當官トナリタル者ヲ除ク

延期中進級シタル者ノ服役期限ハ前官ノ現役定限年齢ニ依ル

第百六十三條 豫備役後備役將校、同相當官、准士官、下士、兵卒及第一補充兵ニシテ文官ニ任セラレ若クハ公吏トナリ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸其ノ他ノ

業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣上裁ヲ經テ充員召集若クハ後備軍召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第百六十四條 徵兵令第二十四條及本條例第二十六條第七十七條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ勤務演習及簡閱點呼免除ノ認可ヲ受ケ將校、同相當官及准士官ニ在テハ本人所管ノ師團長ニ下士以下ニ在テハ本人所管ノ聯隊區司令官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第百六十五條 本條例ニ依リ町村長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出ス在郷陸軍軍人ノ願屆書ハ尙島司郡長ヲ經由スヘシ

附則

第百六十六條 市制町村制ヲ實施セサル地方ニ在テ本條例中市町村長ノ職務ハ區戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百六十七條 陸軍豫備後備將校服役條例、陸軍豫備後備下士兵卒服役條例、陸軍現役下士上等兵再服役條例、陸軍歸休兵條例及明治二十二年勅令第三十七號ハ本條



例施行ノ日ヨリ廢止ス

第六十八條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●陸軍省訓令甲第三號 (明治二十九年六月十六日)

北海道廳 府縣

陸軍服役條例第六十條ニ依リ現役免除ヲ願フ者其事故父兄等ノ死亡處刑若クハ失踪等ハ市町村長東京市京都市大阪市ニ在テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ區長及之ニ準スヘキ者ハ醫師ノ診斷書ヲ具シ其親族ヨリ本人ニ送付セシム

●布告第四十三號 (明治十五年八月)

徵發令

徵發令別冊ノ通制定ス

(別冊)

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方

リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ニ準スヲ定ムルコト左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ

府 縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ

郡 區

徵發令



- 三 第十二條第四項以下各項及第十三條各項ハ 町村
- 四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ 會社
- 第五條 徵發ス可キモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル
- 第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ
- 第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナシ其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス
- 第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ
- 第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キ

モノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣藪鹽味噌油漬物梅干及薪炭
- 二 乘馬馱馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具
- 三 人夫
- 四 宿舍庇圍及ヒ倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道瀛車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具



第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス

- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綑帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校並ニ同等官現在ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞棄兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場内機械室

第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノ、使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノハ其差出シ場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使



用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ時變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境内ヲ除クノ外居住者ノ起臥及營業ニ必用ナル場所ヲ徵用スルヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編成トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時摘宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ属スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ時變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在テハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス



第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス  
 第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求スヘシ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戶長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一 西洋形船舶

七日間

二 地所

評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件

一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置クヘシ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十



六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ

區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定價

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル

以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定價

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定價ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ

等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊實費及ヒ

船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ

第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舢舨ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第

三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常

ノ定價トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ

其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價

委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徴發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變

更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徴發ニ係ル者ハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ

賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徴發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價

若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定



ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルルキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ劄官ヲ附加ス

●布達第二十六號 (明治十五年十二月)

徵發事務條例

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

(別冊)

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給方ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

徵發事務條例



第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官艦隊司令官分遣官長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長士官ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖トモ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督、旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ證人二人其町村內ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ縣長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證



票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限り場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事付スルコトヲ得

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戸長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ検査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ

郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖トモ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ



第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノノ解船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領證票ヲ交付スルコトアルヘシ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置リ可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出スヘシ

鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ雛形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限り同省ヘ送付スヘシ又新ニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十二條

第二十三條

第二十四條 北海道廳長官府縣知事ハ三ヶ年毎ニ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付スヘシ

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三第五號一二ノ雛形ニ依リ西

十九年  
令第十一  
號ヲ以テ  
刪除  
同前



洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶  
漁船表ヲ製シ毎年三月三十一日限り海軍省へ送付スヘシ

但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル漁船アルトキハ第五號三ノ雛形ニ  
依リ漁船表ヲ製シ其時々同省へ送付スヘシ

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ  
必用ナル屬具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコ  
トヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供ス  
ル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ヌ又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ヌ  
第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖廚ヲ指  
シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸  
坐敷貸廐等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長

ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

- 一 麻署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋
- 二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋
- 三 上官又ハ同等軍屬一名 一室
- 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室
- 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊
- 六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半
- 七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ムヘシ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許  
サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ  
請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲クル日限ヲ更新スル者ニアラス  
第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シ



ト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物

二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目喰藪百五十目 晝秣藪五百目喰藪百五十目

夕大麥二升秣藪五百目喰藪二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕大麥二升秣藪一

貫目喰藪五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藪一貫目 晝小麥

五合 夕小麥一升五合喰藪二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升喰

藪一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰藪一貫目

寢藪ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其他ノ慣用ニ從

ヒ地爐若クハ火鉢薪炭 每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含

ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ 食飼ニ供ス可キ物品又ハ手

傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若

クハ物品及手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准

ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足

スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准

シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能

ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツ可シ



第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添へ其請求ヲ爲スコシ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲ケルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三箇月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不公式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セズ

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠



償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管ス

ル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲  
セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用  
ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ  
調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ 供給者ノ請  
求金額アル  
モノハ之  
ヲ添フ 其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求  
金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ  
但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス  
可シ

第四十九條 徵發令第二十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場ニケ所以上ノ前三年  
間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘ  
シ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論  
演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區  
長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ  
第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同  
額タル可シト雖モ本條第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スル  
ニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航舶實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航舶中現



ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ス場所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ撰用ス可キモノトス

其撰舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其選舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由



二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ  
 ナル方法ニ依リタルヤ  
 其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金ヲ定メタル歟  
 其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條

評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ  
 府知事縣令郡區長若クハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄第一號ノ一

徵發書

一 宿舎 廳署用 將官幾人 上長官幾人  
 士官幾人 下士幾人 兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 廐圍 幾匹分

右、、、

一 倉庫 幾坪

右、、、

一 解船 幾艘

右、、、

一 何々

右、、、

前書ノ通徵用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日 何々長

官姓 名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戶長役場宛

備考 徵發書ノ料紙ハ美濃野紙タル可シ

附錄第一號ノ二

徵發事務條例



徵發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一駄馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何

一何々

右内

何

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

某府(縣)

官姓

某郡(區)役所宛

名印

附錄第一號ノ三甲

徵發書

一漁船

船名

一西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徵用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長

某會社某地店長宛

官姓

名印

附錄第一號ノ三乙

徵發書

一將校並同等官

幾名

一下士卒並同等

幾名



徵發事務條例

一馬 幾匹  
 一車 幾輛  
 一荷物略計 幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ其社所有ノ何號船ヲ徵用シ某月某日某港出帆)某港ニ運送爲致候條遲滯ナク供給可致事

年月日 何々長  
 官姓 名印

某會社某地店長宛

附錄第一號ノ四

徵發書

一上等 幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄  
 一中等 幾名内、  
 一下等 幾名内、  
 一馬 幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄  
 一車 幾輛内幾輛ハ、

幾噸内幾噸ハ、

一荷物略計  
 右ハ通常(特別)流車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地へ運送候條遲滯ナク供給可致事

年月日 何々長  
 官姓 名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄第一號ノ五

徵發書

一玄米 幾百石  
 一精米 幾拾石  
 一薪 幾貫目  
 一何々  
 一何々

右徵用候條某月某日限リ供給可有之事

年月日 何々長  
 官姓 名印

徵發事務條例



某府(縣)宛

附錄第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍

右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年月日

何々長

某町(村)戸長役場宛

官姓

名印

附錄第二號ノ一

受領證票

一宿舍

廨署用

將官幾人

上長官幾人

右ハ某月某日ヨリ

下士幾人

兵卒幾人

迄徵用

一廬園

幾匹分

右ハハ

一倉庫

幾坪

右ハハハ

一解船

幾艘

右ハハハ

一何々

右ハハハ

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓

名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考受領證票ハ總テ存留證票ノ式タル可シ

附錄第二號ノ二

受領證票

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用



幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用  
 一 駄馬  
 右内 幾匹、  
 幾匹、  
 一 何々  
 右内 何、  
 何、  
 一 何々  
 右内 何、  
 何、  
 前書ノ通徵用候也  
 年月日  
 何々長  
 官 姓 名 印  
 某府(縣)  
 某郡(區)役所宛

附錄第二號ノ三甲

受領證票  
 一 漁船  
 一 西洋形風帆船  
 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徵用  
 前書之通徵用候也  
 年月日  
 何々長  
 官 姓 名 印  
 某會社某地店長宛

附錄第二號ノ三乙

受領證票  
 一 將校並同等官  
 一 下士卒並同等  
 一 馬  
 一 車  
 一 荷物略計  
 幾名  
 幾名  
 幾匹  
 幾輛  
 幾輛

徵發事務條例



徵發事務條例

三三三

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徵用  
前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓

名印

某會社某地店長宛

附錄第二號ノ四

受領證票

一上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等

幾名内、、、

一下等

幾名内、、、

一馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車

幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物略計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ某月某日時通常(特別)派車徵用

前書之通徵用候也

年月日

何々長

鐵道會社某地停車場長宛

官姓

名印

附錄第二號ノ五

受領證票

一玄米

幾百石

一精米

幾拾石

一薪

幾貫目

一何々

一何々

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓

名印

某府(縣)宛

徵發事務條例

三三三























瀛機製造最大極

何馬力

造船機械工長

道廳何(府)縣何國何郡(區)何町(村)何番地何某

造船職工	內兼端舟職	何何	何何	鑄造職工	何
端舟職工	內兼造船職	何何	何何	旋鑪盤職工	何
船具職工		何	何	組立職工	何
填隙職工		何	何	鍊鐵職工	何
製帆職工		何	何	整飾職工	何
製圖職工		何	何	製管職工	何
模型職工		何	何	鉋鋸器械職工	何
前三箇年間製造シタル船舶ノ馬力及噸數	瀛船何噸 帆船何噸	何馬力	何艘		

一各職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ  
 一造船職工ニシテ端舟職工ヲ兼ル者アレハ造船職何人内兼端舟職何人ト記スヘシ他ノ兼職モ之ニ準ス

附錄第四號ノ二

日本式西洋式鑄造場表

道廳何(府)縣

持	主	何國何郡(區)何町(村)何番地華(士)族(平民)何某
所在地名		何國何郡(區)何町(村)何番地
熔鐵爐數	何箇	
熔鐵量	何貫目	
熔鐵機械種類	瀛(人力)	
平常製造品種	何品	
職工ノ數	何人	

一職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ  
 一熔鐵量ハ爐數ノ多少ニ拘ハラヌ一回ニ熔解シ得ル量ヲ掲クヘシ  
 一本表ニハ一回ノ熔鐵量百貫目以下ノ鑄造場ハ之ヲ掲クルヲ要セス

附錄第四號ノ三

徵發事務條例



旋盤三臺以上裝置鐵工場表

道廳何(府)縣

持主	何國何郡(區)何町(村)何番地華(士)族(平民)何某
所在地名	何國何郡(區)何町(村)何番地
旋盤長サ	何「ヒート」
旋盤眞隔	何「インチ」
器械種類	蒸(水車)(風車)(人力)
馬力	何馬力
職工ノ數	何人

一職工ノ數ハ場内最大事業ニ要スル一日ノ總數ヲ記スヘシ  
 一旋盤(轆轤ノ如キモノ)眞隔トハ旋軸ト盤面ノ間隔即チ其處ニ廻轉スル物體ノ半徑ナリ

附錄第五號ノ一改正

登簿噸數百噸未満汽船表

道廳何(府)縣

免狀番號	船名	用方	運航港津	所属會社及船主
一〇二五	何丸	郵船	何港ヨリ何港ヲ經テ何港迄	何國何郡何町(村)何番地何社
一二五六	何丸	旅客船	何港ヨリ何港迄	何國何郡何町(村)何某
	何丸	港内使用船	何	港何國何郡何町(村)何社

附錄第五號ノ二改正

登簿噸數百噸以上汽船表

道廳何(府)縣

船名	何丸	所属會社或ハ船主	何國何郡何町(村)何番地何社或ハ何某
免狀番號	何	番運航港津	何港ヨリ何港ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間
定繫港	何港或ハ何灣	方	郵船旅客貨物或ハ挽船
船内構造變更ノ箇所	何甲板ニ上中等客室何箇所ヲ設ク或ハ之ヲ除キ船庫又ハ何々ニ改造ス	一晝夜ノ炭費	何斤
一晝夜ノ油費	何升	合一晝夜ノ脂費	何斤
全速力	何	哩尋常速力	何哩



附錄第五號ノ三改正

汽船表

道廳何(府)縣

船名何	九	所屬會社或ハ船主		何國何郡何町(村)何番地
		定航地方事務扱所		何港何郡何町(村)何番地
免狀番號	何番	何港	何郡何町(村)何番地	何々社或ハ何某
登簿噸數	何噸、二	五買入代價	何	何々社或ハ何某
製造年月何	何年何月	航路	定限外國、內國、近海或ハ平水航船	
檢査年月何	何年何月	檢査證書有効期限	何	箇月
用方	郵船旅客貨物或ハ挽船運	航津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間	
定繫港	何港或ハ何灣	石炭貯量	何	斤
一晝夜ノ炭費	何斤	一晝夜ノ油費	何	升何合
一晝夜ノ脂費	何斤	蒸溜水器械一晝夜	何	升何合

船長及運轉手定員	何	人	機關手定員	何	人
事務係定員	何	人	水夫定員	何	人
火夫定員	何	人	自餘乘組定員	何	人

附錄第六號

賠償金計算書

一宿泊代 第何號證票	何拾何圓
一廠圍代 同上	何拾何圓
一駄馬何匹 同上	何圓
一人夫何人 第何號證票ノ内	何圓
一六里外人夫何人 同上	何圓
一荷積大七車何輛 第何號證票	何圓
一同大八車何輛 同上	何圓
一同中車何輛同小車何輛 第何號證票ノ内	評價
右七廉合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也	
年月日	

府知事(縣令)郡區長(戶長)



何地何會計官  
御 中

停車場長(船舶會社店長)

姓 名 印

附錄第七號

何郡(區)何市場  
何郡(區)何市場  
何郡(區)何市場  
平均物價表

何府(縣)

種類	平均價	年			自何年 至何年 三箇年
		何	何	何	
玄米	壹石				
精米	壹石				
鹽	壹石				
味噌	壹貫目				
醬油	壹石				

備考	種類	平均價	年			自何年 至何年 三箇年
			何	何	何	
○各種類共其品質數等アルヲ以テ各上中下三等ノ價ヲ平均ス ○漬物ハ澤庵漬トス	漬物 四斗樽入	壹樽				
	梅干 四斗樽入	壹樽				
	大麥	壹石				
	小麥	壹石				
	裸麥	壹石				
	秣藪	壹貫目				
	松薪	壹貫目				
	堅薪	壹貫目				
	炭	壹貫目				
	石炭	壹噸				
	糞	壹貫目				



●陸軍省訓令甲第十五號 (明治二十三年九月)

徵發事務條例中徵發物件取調送附方

道廳 府縣

今般勅令第九十六號ヲ以テ徵發事務條例第二十四條改正ニ依リ三年毎ニ徵發物件表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ陸軍省ニ送附スルハ本年十二月調ヲ以テ第一回トシ二十五年十二月調ヲ以テ第二回トシ自後之ニ準スル儀ト心得ヘシ  
但條例第二十一條ニ依リ郡區長ニ於テ製表ノ儀モ毎年調製ヲ要セス本文同様ノ儀ト心得ヘシ

●達甲第十三號 (明治十四年四月廿五日)

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ンス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ

一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精力ヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其要ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證



スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元証書ヲ添フヘシ  
第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸  
軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書  
ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中小尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納  
メシム其ノ金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタル  
モ妨ケナシ但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ  
以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差  
出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死歿スルカ又ハ現役ヲ離ルル時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村  
族籍職業

何某何女(姉)(妹)



今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書(家計保護金証金)相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村  
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戸長 戸長アラサル  
地ハ區長

年號月日

姓 名 印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日

官 姓 名 印

勅令第二百一十一號 (明治二十九年五月十五日)



陸軍士官學校條例

- 第一條 陸軍士官學校ハ生徒ニ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス
- 第二條 生徒ハ陸軍各兵科現役士官候補生ヲ以テ之ニ充テ各隊ヨリ分遣セシム
- 第三條 本校ニ生徒隊一隊ヲ置ク
- 第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 校長 少將大佐
  - 副官 大中尉
  - 教官 中少佐大尉及尉官相當官
  - 教授
  - 馬術教官 大中尉
  - 生徒隊長 中少佐
  - 生徒隊副官 中尉
  - 生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、陸軍屬及陸軍助教

- 第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス
- 第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第七條 教官ハ軍事學各科ノ授業ヲ分擔シ佐官ノ教官ヲ以テ各科ノ科長トス
- 第八條 教授ハ外國語學科ノ授業ヲ分擔ス
- 第九條 馬術教官ハ馬術ノ訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌ル
- 第十條 生徒隊長ハ生徒隊一般ノ事ヲ管理シ生徒訓育ノ責ニ任ス
- 第十一條 生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル
- 第十二條 生徒隊中隊長ハ其中隊生徒ノ訓育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且



軍隊内務、服装、行狀ヲ監視ス

第十三條 生徒隊附士官ハ所屬中隊ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十四條 生徒修學期ハ概テ十六箇月トス

第十五條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十六條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十七條 生徒入校中ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十八條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十九條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一 學術ノ豫習全カラスシテ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第二十條 生徒中疾病及ヒ其他ノ事故ニ依リ學期內ニ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ハ猶滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官生徒隊長及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十二條 滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ前條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十三條 毎年生徒ニ凡三週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條 教官及中隊長生徒隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

第二十五條 生徒演習上ノ必要ニ依リ師團各隊ヲ使用スルコトヲ得

●勅令第二百十二號 (明治二十九年五月十五日)



陸軍中央幼年學校條例

第一條 陸軍中央幼年學校ハ生徒ニ概テ尋常中學校第四年第五年ノ學科ト同一ナル  
教授並軍人ノ豫備教育ヲ爲シ陸軍各兵科現役士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル  
所トス

第二條 生徒ハ陸軍地方幼年學校卒業者ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 本校ニ生徒隊三中隊ヲ置ク

第四條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教授

馬術教官 大中尉

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊中隊附 中尉

軍醫

獸醫

軍吏

准士官、下士、陸軍屬及陸軍助教

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任シ東京陸軍地方幼年學校  
ヲ管轄ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第八條 馬術教官ハ生徒ノ馬術訓練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌  
ル

第九條 生徒隊中隊長ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養シ且軍隊内務、服裝、行狀ヲ監視シ生  
徒訓育ノ責ニ任ス

第十條 生徒隊中隊附士官ハ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注  
意シ分擔ノ訓育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス



第十一條 生徒修學期ハ概テ二箇年トシテ之ヲ二學年ニ分ツ

第十二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ校長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十三條 生徒ハ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナスモノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十四條 生徒中地方幼年學校特待生タリシ者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ免除スルコトヲ得

生徒中地方幼年學校ニ於テ納金ヲ半減シタル者又ハ之ニ準スヘキ者ハ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

第十五條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス

第十六條 第二年生徒中學術優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選拔シテ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

第十七條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第十八條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學術ヲ修メ得サル者ト雖モ尙望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但シ延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十九條 生徒中全學期ヲ終ルモ傷痕疾病等ニテ士官候補生トナスヲ得サル者ニハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム

第二十條 前三條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十一條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官教授及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ其認可



ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナルモノハ士官候補生ヲ命スルト同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得

第二十二條 毎年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十三條 中隊長及中隊附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

附則

第二十四條 當分ノ内地方幼年學校卒業者本校定員ニ滿タサル時ハ華士族平民中本校生徒志願ノ者ヨリ試験ノ成績ニ依リ採用補缺スルコトヲ得

第二十五條 本條例第一條第二條第十一條第十三條第十四條第十六條及第二十四條ハ明治三十三年九月一日ヨリ實施ス

第二十六條 明治三十二年以前召募ノ中央幼年學校生徒ハ其卒業ニ至ル迄左ノ各條ニ據リ取扱フ

第二十七條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二十八條 戰死又ハ公務ノ爲メ死亡シタル高等官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第二十九條 前條ノ外官費生徒、半官費生徒、自費生徒ノ區分ハ監軍之ヲ裁定ス

第三十條 生徒修學期ハ概テ三箇年トシ其一年期ハ毎年九月ニ始メ而シテ第三年ニ在リテハ五月ニ終ル

第三十一條 第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナル者若干員ヲ選拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

●勅令第二百十三號 (明治二十九年五月十五日)

陸軍地方幼年學校條例

第一條 陸軍地方幼年學校ハ生徒ニ概テ尋常中學校第一年乃至第三年ノ學科ト同一ナル教授ヲ爲シ兼テ軍人精神ヲ涵養シ陸軍中央幼年學校生徒ト爲スヘキ者ヲ養



成スル所トス

第二條 生徒ハ華士族平民中陸軍將校ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條 陸軍地方幼年學校ハ左ノ六箇所ニ置ク

東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本

但東京陸軍地方幼年學校ハ陸軍中央幼年學校ノ附屬トス

第四條 陸軍地方幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 少佐大尉

副官 中尉

生徒監 大中尉

教授

軍醫

下士、陸軍屬及陸軍助教

校長以下將校同相當官及下士兵卒ハ豫備後備ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得其身分取

扱ハ召集中ノ者ニ同シ

第五條 校長ハ監軍ニ隸シ東京陸軍地方幼年學校長ニ在テ校務ヲ總理シ生徒教育ノ

責ニ任ス

第六條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 教授ハ各學科ノ授業ヲ分擔ス

第八條 生徒監ハ生徒ノ軍人精神ヲ涵養薰陶シ日常其躬行起居動作ヲ監視シ生徒訓

育ノ事ニ就テハ專ラ其責ニ任ス

第九條 生徒修學期ハ概テ三ヶ年トシ之ヲ三學年ニ分ツ

第十條 生徒教育課程ハ校長東京陸軍地方幼年學校長ニ在テハ陸軍案ヲ具シ監軍之

ヲ定ム

第十一條 生徒ハ總テ校内ニ寄宿セシメ被服糧食等ノ費用トシテ若干ノ納金ヲナス

モノトス其金額ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十二條 生徒中戰死者及將校同相當官ノ孤兒ニ對シテハ特ニ前條ノ納金ヲ免除ス



ルコトヲ得之ヲ特待生ト稱ス

生徒中陸海軍士官ノ孤兒ニ對シテハ前條ノ納金ヲ半額ニ減スルコトヲ得

第十三條 第三年生徒中學科優等ニシテ品行方正ナル者若干ヲ選拔シ舍長ヲ命ジ特別ノ徽章ヲ附セシムルコトヲ得

第十四條 生徒中止ヲ得サル事故ニ依リ退校ヲ願出ツル者アル時ハ其事情ニ依リ退校ヲ許スコトアルヘシ

第十五條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一 學術ヲ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 屢法則ヲ犯シ又品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其三 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其四 卒業試験ニ落第セシ者

第十六條 生徒中各學年ニ於テ所定ノ學科ヲ修メ得サル者ト雖モ尙望ミアル者ハ一箇年延期修學セシムルコトヲ得但延期ハ全學期ヲ通シテ一回限リトス

第十七條 生徒中全學期ヲ終ルモ中央幼年學校ニ入校セシメ得サル者ハ單ニ教育課程卒業ノ證書ヲ附與シテ退校セシム

第十八條 前四條ニ該ル者アルトキハ校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ其認可ヲ得テ之ヲ處分ス

第十九條 校長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験及身體檢査ヲ施行シ各教授及生徒監ヲ集メ會議ヲ開キ修學ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ考科表ヲ製シ身體檢査表ヲ添ヘテ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十條 監軍ハ前條卒業者ニ就キ中央幼年學校へ入學セシムヘキ者ヲ定メテ地方幼年學校長ニ達ス

第二十一條 毎年生徒ニ凡五週間ノ夏期休暇ヲ與フルコトヲ得

附則

第二十二條 本條例ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス



●勅令第百四十一號 (明治二十八年十月四日)

陸軍六週間現役兵條例

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキモノハ教職ニ就キタル年若クハ其翌年ニ於テ其居住地師管内ノ兵歩隊警備隊ヲ置ク島嶼ニ編入ニアツテハ警備隊ニ編入シ服役セシム

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日トス但疾病其ノ他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌年徵集ス

戰時若シハ事變ニ際シテハ其徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ倣フ其責ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アルモノニハ聯隊長其成績ヲ具シ順序ヲ經テ師隊長第七師管ニ在テハ屯田兵司令官ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス

第六條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵檢査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサルモノハ徵兵檢査規則ニ照シ處分ス

北海道及沖繩縣ニアル者ノ身體檢査ニ關スル規定ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム

第七條 檢査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置クマテハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治廿九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十二年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●陸軍省令第十八號 (明治二十八年十月十一日)

陸軍六週間現役兵條例施行細則

第一條 六週間現役兵ノ身體檢査ハ教職ニ就キタル年居住地最寄ノ聯隊區徵兵署

廿八年陸軍省令第十八號參看



警備隊區徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後教職  
トナリタルモノハ翌年回トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ  
作リ身體檢査ニ先クテ之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ送付シ檢査ノ手續ヲ  
協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體檢査ニ關シテハ尋常徵兵  
ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附錄第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團  
長ニ差出シ且其ノ成績ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲スヘシ

第四條

第五條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ

第六條 北海道及沖繩縣ニ在ルモノハ身體檢査ハ左ノ諸項ニ依ルヘシ

一 北海道ニ在テハ札幌聯隊區司令部沖繩縣ニ在テハ沖繩分遣隊ニ於テ身體檢査

本條ハ剛  
除

ヲ行フ

二 北海道廳及沖繩縣廳ニ於テハ教職トナルヘキ年豫メ第二條ニ準シ名簿ヲ作り

札幌聯隊區司令部又ハ沖繩分遣隊ニ送付スヘシ

三 札幌聯隊區司令官及沖繩分遣隊長ハ三月一日迄ニ醫官ヲシテ身體檢査ヲ爲サ

シメ其名簿ヲ札幌聯隊區司令官ヨリハ師團長沖繩分遣隊長ヨリハ鹿兒島聯隊

區司令官ニ送付シ鹿兒島聯隊區司令官ハ第三條ノ例ニ準シ取扱フヘシ

第七條 身體檢査ノ後教職ヲ罷メタルモノアルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令  
部ニ通報スヘシ但北海道及沖繩縣ニ在テハ檢査後入營期日迄ニ教職ヲ命セサルモ  
ノアルトキ亦同シ

第八條 身體檢査ヲ受ケタルモノ沖繩縣在籍者ヲ除クハ其ノ年ノ五月三十一日迄ニ合格若ク

ハ其受ケシ處分ヲ本籍所管ノ島司郡市區長ニ届出ヘシ

本條ノ届出ヲ爲サハルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條 條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタルモノアルトキハ聯隊長



獨立大隊ニ在テハ其隊長ヨリ本籍所管ノ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通報シ  
警備隊ニ在テハ該司令官  
大隊區司令官警備隊區司令官ハ其名簿ヲ調製シ且道廳府廳ニ通報スヘシ  
國民軍幹部適任證書ハ附錄第二樣式ニ準シ調製スヘシ

第十條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分  
散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ其證書ヲ返還セシ  
ム

第十一條 前諸條ニ掲クルモノ、外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定ム  
ヘシ

條例第九條ニ依リ第二師管ノ步兵隊ニ編入スヘキ者ノ取扱ハ第七師團長ヨリ第二  
師團長ニ協議シ之ヲ定メ陸軍大臣ニ報告シ道廳長官ニ通知スヘシ

附則

明治二十九年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體檢査ハ居住地最寄ノ徵兵署ニ限  
ラス聯隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ施行スルコトヲ得

第一號樣式

用紙厚紙

陸軍六週間現役兵合格證書

凡曲尺六寸

右檢査合格ニ付此證書ヲ付與ス

年月日

職(爵)氏

名

府(縣)郡(市)町(村)  
某(長)次(男)兄(弟) 本人戸主ナレハ  
戸主ト記スヘシ  
氏 名

心得

一此證書ヲ所持スルモノ、入營期日ハ六月一日トス

但疾病其他ノ事故ニ依リ期日ヨリ三日以内ニ入營シ難キモノハ翌  
年徵集セラルモノトス

二戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ハ延ハスコトアルヘシ  
三、、、、、、、、、、、、、、、、、、

裏



第二樣式 (用紙鳥ノ子紙) 七寸八分

五寸六分

第 號

國民軍幹部適任證書

府縣族籍

陸軍六週間現役兵氏名

國民軍幹部適任ノ者

ト確認ス

年月日

職官位勳氏 名印

(此欄以外ノ模様ハ畧ス)

●勅令第九十一號 (明治二十九年五月八日)

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管內ニ於テ服役スヘ

キ兵科及衛戍地ヲ選フコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、

裝具費、彈藥費及兵器修理費トシテ金六拾貳圓糧食費トシテ金參拾八圓ヲ納メシ

ム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剔毛費及馬藥費トシテ更ニ

金七拾五圓ヲ納メシム以上ノ金額エテ不足ヲ生スルキハ之ヲ追徴シ殘餘アルキハ

之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長(聯隊ヲ成サ

サル隊ニ在テハ該隊長以下同シ)外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハアルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス



第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前條ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セシム

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長（東京京都大阪ノ三市及北海道ノ區ニ在テハ區長以下同シ）ヲ經テ居住地所管ノ師團長ニ差出ヌヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歳未滿者ハ戶主若クハ後見人ノ承認書ヲ添付スルヲ要ス

島司郡市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ師團長ニ届出ヘシ

第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書ニ通ヲ製シ其一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體檢査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試驗格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ檢査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試驗ヲ受クヘキ者ノ身體檢査ヲ爲サシメ其合格者ハ陸軍將校生徒試驗臨時委員ヲシテ學術試驗ヲ行ハシム

第十四條 師團長ハ試驗ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常徵兵ト同時ニ身體檢査ヲ爲シ合格者



ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十五條 一年志願兵入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第

二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其服役満期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具

シ師團長(歩兵ニ在テハ旅團長ヲ經テ)ノ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ月ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役満期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セシテ豫備役ニ編入ス

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルルハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ歩兵隊(理財學、商業學卒業證書ヲ所持スルモノハ師團司令部所在地ノ歩兵隊ニ限ル)ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生トナリ各専門ノ勤務ニ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書寫ヲ添へ出願スヘシ



前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタル時ヨリ更ニ三箇月ノ後三等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ術成病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生、及軍吏生ト爲シタル者ハ服役満期ノ際師團監督部長、軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ(軍醫部長、獸醫部長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ)終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其落第者ニ在テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄

鐵工下長適任證書、軍吏生ハ軍吏部下士適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

二等書記ノ任官及各適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵終末試験格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシム



第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長ト軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルルハ其親族ヨリ師團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添ヘ入營延期ヲ師團長ニ出願スヘシ  
前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ師團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルル若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯

隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ル者ハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷病若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

一 傷病若クハ疾病ニ依リ服役ニ堪ヘ難キトキ

二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出テントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長（町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者）ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊



司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ

第三十七條 第三十五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分  
ス

第三十八條 明治廿七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ  
第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ  
豫備役年期ヲ通シテ十一年四箇月トス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令施行以前旅團長ニ差出シタル一年志願兵ノ願書ハ之ヲ師團長ニ引繼クヘシ

●陸軍省令第十二號 (明治二十九年五月十一日)

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服ノ裝具現品ハ左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴 二着
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚袴
- 九 第一種手牒
- 十 背囊
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒



十四 寢具

第二條 糧食自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二様式ニ承認書ハ第三様式ニ證明書ハ第四様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體檢査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ其ノ身體檢査ニ不合格ノ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ノ體格檢査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ送付スヘシ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體檢査ヲ爲スヘキ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ檢査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ  
事故アリテ指定ノ徵兵署ニ出頭シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徵兵署ニ於テ身體檢査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ出願者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官協議ノ上檢査時日及場所ヲ定メ本人ニ達ス可シ

第六條 前條ノ身體檢査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ

師團長ハ其身體檢査ニ不合格ノ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ノ體格檢査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體檢査不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セサル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ檢査ニ不參セル者並學術試驗ニ落第セシ者(二十歳未滿者ヲ除ク)ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第五様式ニ官費服役證書ハ第六



様式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ

第十條 師團長ハ同兵種ニ隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊（理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地步兵隊ニ限ル）ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十一條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ附與シタル者ヲ自費服役、官費服役次年回シ等ニ區別シ其人名書ニ體格檢査表ヲ添へ當該聯隊長（聯隊ヲ爲サ、ル隊ニ在テハ該隊長以下同シ）ニ下付スヘシ

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送付シ監督部長、軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ徒歩刀



ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ作リ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十八條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第十九條 一年志願兵入隊前轉住其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協議スルヲ要ス

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一様式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於

テ一卒志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

氏 名 印

年月日生

何師團長(爵)氏名殿

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「戶主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術御試験」ノ上御認可相成度(戶主「後見人」ノ承認書相添)此段奉願候也」ニ作ル



第二樣式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令十三條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書相添此段奉願候也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
華(士)族(平民)氏

名 印  
年月日生

何師團長(爵)氏名殿

第一樣式欄外ノ記注ハ本樣式ニモ適用ス

第三樣式

一年志願兵服役承認書

氏 名

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住  
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留  
戶主(後見人)氏

名 印  
年月日生

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金參拾八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換フ



第四様式

身元證明書

氏名

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
- 一 何年何月罰金何圓ニ處セラル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラル等
- 一 戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等
- 一 戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等
- 一 何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年 月 日

府(縣)島司(郡)市長(氏) 名 印

條例第四條ニ當ル者ハ(右相違無之)云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル

第五様式

第 號

一年志願兵認定證書

府(縣)族籍

氏 名

年月日生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス

但何兵第何聯(大)隊ニ於テ服役ス可シ

年 月 日

職(爵)氏 名 印

用紙十二行半葉罫紙

陸軍一年志願兵條例施行細則



第六樣式

第 號	官費服役證書
府(縣)族籍	氏 名
年月日生	陸軍一年志願兵トシテ糧食費ノ外官費ヲ以テ服役スルコトヲ許ス
職(爵)氏 名 印	年 月 日

用紙十三行半葉罫紙

第七樣式

明治何年第何師管一年志願兵人員表

年 翌	者 用 採	類 別	卒業證書		學術受驗者		合計
			所持者	計	學術受驗者	計	
條例第六條第二項ニ當ル者	計	近衛何兵 第何聯(大隊) (何兵)	自費	條例第四條ニ當ル者			
條例第卅二條第二項ニ當ル者							











●勅令第二百十六號 (明治二十九年五月十五日)

陸軍教導團條例

第一條 陸軍教導團ハ生徒ニ步兵、騎兵、砲兵、野戰工兵、輜重兵科下士タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 生徒ハ華士族平民中步兵、騎兵、砲兵、野戰工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ採用ス

第三條 本團ニ步兵、騎兵、砲兵、工兵及輜重兵ノ生徒隊各一隊ヲ置ク

第四條 本團ニ左ノ職員ヲ置ク

- 團長 大中佐
- 副官 大中尉
- 生徒隊長 少佐大尉
- 生徒隊副官 中尉

生徒隊中隊長 大尉

生徒隊附 中尉

病院長 二等軍醫正

軍醫

藥劑官

獸醫

軍吏

准士官、下士及陸軍屬

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ團務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第六條 副官ハ團中一般ノ庶務ヲ掌ル

第七條 各生徒隊長ハ其隊生徒ノ教育ヲ掌リ其成績ニ就テハ責ニ任ス而シテ騎兵、

砲兵、工兵及輜重兵生徒ノ教育上各科専門ノ事ニ關シテハ當該兵監ノ區處ヲ受ク

第八條 生徒隊副官ハ隊中一般ノ庶務ヲ掌ル



第九條 生徒隊中隊長ハ其中隊生徒學術ノ教育ニ任シ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且軍隊内務、服裝、行狀ヲ監視ス

第十條 生徒隊附士官ハ生徒隊又ハ所屬中隊ニ在テ生徒教育ノ諸科目ヲ分擔シ生徒ノ躬行ニ就テハ日常注意シ分擔ノ教育ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十一條 生徒修學期ハ歩兵科ハ概テ十四箇月騎兵及輜重兵科ハ概テ十六箇月砲兵及工兵科ハ概テ十八箇月トス

第十二條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ團長案ヲ具シ監軍ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十三條 毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第十四條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退團スルヲ許サス

第十六條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退團セシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

其四 長病ニ依リ卒業ノ目途ナキ者

其五 卒業試験ニ落第セシ者

第十七條 團長ハ修學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ及第者ニハ教育課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第十八條 生徒中疾病事故ニ依リ卒業試験ヲ受ケサル者又ハ卒業試験ニ落第スルモ尙ホ望ミアル者ハ若干日間滯學セシムルコトアルヘシ

第十九條 滯學ヲ命シタル生徒修學ヲ終レハ第十七條ニ準シ卒業證書ヲ附與ス

第二十條 中隊長及生徒附士官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲナサシムルコトアルヘシ

●陸達第二十三號 (明治二十五年三月二十六日)



陸軍志願兵身體檢查規則

第一條 陸軍志願兵 徵兵事務條例施行細則 身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢查ニ適用ス

第二條 志願者一日ノ檢查人員ハ醫官一名ニ付概テ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非ス

滿十五歲以上 四尺七寸以上

滿十六歲以上 四尺八寸以上

滿十七歲以上 四尺九寸以上

滿十八歲以上 五尺以上

第四條 體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 合格徵兵檢查規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ 身長ノ制限ハ本則第三條ニ據ル

二 不合格前項ニ該當セサルモノ

第五條 近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ヌ但各兵科士官候補生志願者ニ在テハ二十尺ノ距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號ヲ視得ルモノ一年志願兵志願者ニ在テハ同百號ヲ視得ルモノヲ採ルコトヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ尙高度ノモノヲ採ルモ妨ナシ

第六條 一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中 二十歲未滿 徵兵檢查規則第三條ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條 醫官ハ檢查了後一週間日以内ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報告シ軍醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格檢查表(第二式)ハ檢查了後士官候補生並諸生徒ノ屬スヘキ部隊ニ 各兵科士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ檢查表ハ師團司令部 教導團生徒志願者ノ檢查表ハ大隊區司令部ヲ經テ送附スヘシ

(表式ハ畧ス)



●陸軍省令第二十一號 (明治二十三年七月八日)

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル取扱及ヒ出願手續

- 一 陸軍下士兵卒ノ父母病氣又ハ死亡等ノ爲メ本人ノ歸郷ヲ要スルトキハ往復ヲ除キ二週日以内ノ休暇ヲ許ス其休暇ヲ願フトキハ親族ニ於テ願書ヲ作りハ醫師ノ診斷書 市町村長 特別市制施行地ノ奧書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙へ宛テ添フハ區長以下同シハ差出スヘシ但掌務繁劇ナルトキハ許可セサルコトアル可シ
- 一 前項ノ外下士ニ在テハ毎年二週日以内ノ休暇ヲ與ヘ歸郷又ハ旅行ヲ許スコトアリ又營外居住ノ下士兵卒ニハ轉地療養ヲ要スルトキ本人ノ願ニ依リ四週日以内ノ休暇ヲ許スコトアルヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行中發病ノ爲メ出發シ難キトキハ延期ヲ願フコトヲ得其延期ヲ願フトキハ本人又ハ親族ニ於テ願書ヲ作り醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市町村長ノ奧書證印ヲ受ケ本人所屬ノ軍隊又ハ官衙へ宛差出スヘシ
- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行ノ者如何ナル事故ニ遭遇スルモ前項ノ場合ヲ除ク外

暇日數ヲ延ハスコトヲ許サス

- 一 途中發病川留船待雪支ニテ休暇日數ヲ超過スルトキハ醫師ノ診斷書或ハ市町村長ノ證明書ヲ請ヒ歸着ノ上差出スモノトス

- 一 休暇ヲ得テ歸郷又ハ旅行スル者ハ左式ノ休暇免許證ヲ携持シ陸軍定制ノ服ヲ着ス

六寸

兵種隊號(所管)

官(兵卒職工) 姓

名

表 休暇免許證 ⑩

職官姓

名 ⑩

陸軍下士兵卒休暇ニ關シ地方ニ係ル願出取扱手續

三〇三



- 一 此證書ハ表記ノ者ニ休暇ヲ與フルノ證トス
  - 一 休暇日數何日(往復日數何日)
  - 一 何月何日何時何地出發何地ニ至リ何月何日何時マテ必ス何地ニ歸着スヘシ
- 裏
- 年 月 日

一 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區長又ハ戶長ニ於テ取扱ヘシ

●陸軍省令第二十二號 (明治二十八年十月三十一日)

陸軍准士官下士官採用細則

第一條 本則本則トアルモノハ陸軍准士官下士官採用規則ヲ云フ以下倣之第一條ニ依リ文官奉職ヲ請願セント欲スル者ニシテ第一項ニ該當スル者ハ第一書式第二項及第三項ニ該當スル者第二書式及第三書式ニ依ルヘシ

第一書式 料紙美濃紙以下倣之

某 儀

某戰役(公務上)ノ傷痕(疾病)ニ依リ過ル年月日現役ヲ退キ(免官相成)候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ依リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書陸軍出身後ノ經歴及賞罰等ヲ詳細ニ記載シ正副二通並ニ診斷書トハ傷痕若クハ疾病ヲ證差出スヘシ以下履歷書トアルモノ倣之及伎倆證明書寫相添此段奉願候也

道廳(府)(縣)國郡(區)町(村)族籍  
退役(豫備)(後備)(元何官)

年 月 日

官 姓 名 印

年號月日生



陸軍准士官下士官採用細則

三〇六

年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿(豫備後備役ノ者ニ在テハ宛名ヲ所管長官トナシ左ノ奥印ヲ要セス)

前書ノ趣調査候處相違無之候也

道廳(府)(縣)(郡)(區)(市)(町)(村)長

年月日

姓名印

第二書式

某儀

來ル(過ル)年月日退職(現役滿期)相成候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ因リ  
文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證明書寫相添此段奉願候也

隊號(所管)(豫備)(後備)

年月日

官姓名印

年號月日生

年號月何年何箇月

(所管長官)

職官姓名殿

第三書式

某儀

過ル年月日退役(現役滿期免官)相成候ニ付陸軍准士官下士官採用規則ニ據リ文  
官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證明書相添此段奉願候也

道廳(府)(縣)(國郡)(區)(町)(村)族籍

退役(元何官)

年月日

官姓名印

年號月日生

年號月何年何箇月

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

陸軍准士官下士官採用細則

三〇七



道廳(府)(縣)郡(區)(市)(町)(村)長

年月日

姓名印

第二條 願書及履歷書ハ楷書又ハ行書ヲ以テ自ラ之ヲ書スヘシ

第三條 本則第五條ニ因リ教官技術官タランコトヲ望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ムモノハ其志願ノ廳名ヲ願書中ニ記載シ又教官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セシ學術ヲ履歷書中ニ記載シテ差出スヘシ

但教官技術官タルノ志願ヲナシ合格セサルモノハ更ニ普通判任官タルヲ請願スルコトヲ得

第四條 本則第一條ノ資格ヲ有スト雖モ服役以來左ノ項目ニ觸ル者ハ請願スルヲ得ヌ又既ニ請願ノモノハ其願無効ニ屬ス

- 一 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタル者

第五條 本則第一條ニ依リ請願スル者アルキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣知事

ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試験ヲナセシキハ其試験ノ科目及合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セシ上ハ直ニ其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第八條 各官廳ニ於テ請願者ヲ採用シ他日非職ヲ命シ又ハ本官ヲ免シタルトキハ其理由ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第九條 教官技術官タランコトヲ望ム者受験ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ凡テ自辨タルヘシ

第十條 本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サント欲スルキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ届出ヘシ



●勅令第百十八號 (明治二十五年十二月廿一日)

陸軍軍人ト成ルヘキ諸生徒ニシテ平時屯營内又ハ野外ニ於テ演習中傷疾ヲ受ケ若クハ之ニ原因シテ疾病ニ罹リ將來軍人ノ服役ニ堪ヘス退學ヲ命シタルモノハ左ノ區別ニ依リ一時限リ手當金ヲ給スコトヲ得

一 軍人恩給法第九條ノ各項ニ等シキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表ノ各項ニ從ヒ陸軍卒ノ金額六箇年分ヲ給ス

二 軍人恩給法第十四條第二項ニ等シキ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ同法第三號表第六項陸軍卒ニ相當スル一箇年ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

前項ノ傷疾疾病輕重ノ等差ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●勅令第百九十二號 (明治二十七年十一月二十四日)

陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則

第一條 陸軍軍人軍屬ニシテ戰役ニ從事シ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者病院ニ於テ治療ノ後郷里ニ復歸療養セシムルトキハ本規則ニ依リ給與ス

第二條 歸郷療養中手當トシテ軍人ニハ第一表ノ金額軍屬ニハ本俸三分ノ二ヲ給ス

第三條 歸郷ノ際歸郷療養ノ者ニ三回限リ病衣一具ヲ給ス  
傷疾ノ狀況ニ依リ簡易ノ補欠器械若クハ副木等ヲ要スルモノハ一回限リ之ヲ給スルコトヲ得

第四條 歸郷旅費ハ當該病院所在地ヨリ本籍地若クハ寄留地迄順路ニ應シ出發ノ際精算拂ト爲シ第二表ノ金額ヲ給ス但途中川留、雪支、船待其他避クヘカラサル事故ノ爲メ滞在シ其ノ事由確實ナルモノハ日數ニ應シ同表ノ日當ヲ追給ス  
傷項策定ノ爲メ召喚ヲ要スルトキモ亦前項ニ準シテ往復ノ旅費ヲ給ス

第五條 歸郷療養中傷疾、疾病再發シ地方醫師若クハ地方病院ニ就キ治療ヲ受ケタル者ハ其ノ醫師又ハ病院ノ證明ニ依リ實費ヲ官給スルコトアルヘシ  
第六條 俸給其他從來受クル所ノ諸給與ハ歸郷療養中其支給ヲ停止ス



陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則

第一表

官名	月額	官名	月額
大將	二百十三圓	少當	二十六圓
中將	百七十圓	准士官	二十一圓
少當	百四十九圓	士官ノ階級ニアラスシテ 士官ノ勤務ニ服スル者	十五圓
大當	百六圓	曹長	九圓五十錢
中當	八十五圓	一等當軍官	八圓五十錢
少當	六十四圓	二等當軍官	七圓五十錢
大當	四十三圓	諸職	五圓七十錢
中當	三十二圓	諸生	

第二表

名	稱	區別	旅				費			
			一哩	一海	一車	一日	一哩	一海	一車	一日
大將	高等官親任	八	錢	十	錢	二十八	錢	四	圓	
將當	同	七	錢	八	錢	二十	錢	二圓五十錢		
上長官	同	六	錢	六	錢	十五	錢	一圓六十錢		
士官	同	六	錢	六	錢	十五	錢	一圓三十錢		
准士官	同	四	錢	五	錢	十	錢	七十錢		
下士	同	四	錢	五	錢	七	錢	五十錢		
諸職	同	三	錢	三	錢	五	錢	三十錢		
諸生	同	三	錢	三	錢	五	錢	三十錢		

士官ノ階級ニアラスシテ士官ノ勤務ニ服スル者又在職中准士官タル曹長ハ准士官ノ額ヲ給ス雇員ニシテ月給六十圓以上ハ准士官ニ十二圓以上ハ下士ニ十二圓未滿及備人ハ諸卒ニ準ス

陸軍軍人軍屬歸郷療養者給與規則



下士以下及判任官ニ在テ步行シ難キ者ノ車馬料ハ一里毎ニ金三錢ヲ増給ス

●陸軍省令第廿三號 (明治二十七年十二月一日)

陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與細則

第一條 本規則第二條ノ手當金ハ傷疾、疾病者現時所屬ノ師團若クハ其留守師團司令部所在地ノ監督部ニ於テ毎月之ヲ支給ス但師團ニ屬セサル者ハ總テ臨時陸軍中央金櫃部ニ於テ支給ス

歸鄉療養者ハ毎月末日ニ於テ其月分ノ手當金請求書第一號ニ郡區長若クハ市町村

長ノ生存證明ヲ得師團若クハ其留守師團司令部又ハ陸軍省經理局第三課ヲ經テ當該監督部又ハ臨時陸軍中央金櫃部ニ出シテ受領スヘシ

第二條 手當金ハ歸鄉療養ヲ命セラレタル翌日ヨリ退職、免官、免役、現役免除、常備、後備役免除ヲ包含ス以下同シ

若クハ復職復隊ヲ命セラレタル日マテ支給ス但死亡スルトキハ其當日マテ支給ス日割計算ノ法ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘

位ニ止メテ支給額ヲ得ルモノトス

第三條 本規則第三條ノ病衣、補缺器械又ハ副木類ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給ス

第四條 本規則第四條ノ旅費ハ行程三里以上ニアラサレハ之ヲ給セス但三里未滿ト雖モ步行シ難キモノハ車馬料ヲ給ス

旅費計算ノ法ハ陸軍給與令第六十六條及同細則第九章第一條乃至第三條ニ依ル途中ニ於テ川留、雪支、船待其他避クヘカラサル事故ノ爲メ滞在シタルトキハ其滞在在地ノ郡區長若クハ市町村長ノ事實ヲ證明セル書面ヲ得テ日當ヲ請求スルモノトス

第五條 歸鄉旅費ハ歸鄉ヲ命シタル病院ニ於テ支給シ召喚旅費ハ召喚ヲ命シタル應ニ於テ支給ス

第六條 本規則第五條ノ治療費ヲ請求セントスル者ハ地方醫師若クハ地方病院ノ證明書第二號ニ請求書第三號ヲ添ヘ歸鄉ヲ命セラレタル病院へ差出スヘシ但平時ノ



姿勢ニ復シ歸郷ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ在住地所管ノ師團司令  
部ヲ經テ當該衛戍病院へ差出スヘシ病院ニ於テハ之ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ  
其治療費ヲ支給スヘシ

第七條 傷疾、疾病再發者ニシテ陸軍病院ニ於テ治療ヲ爲ストキハ其治療ヲ官給ト  
ス但入院セシムルトキハ其食料ヲ自辨セシム

第八條 傷疾、疾病全癒シ復職復隊ヲ命セラレタル者ハ其所屬部隊ニ於テ居住地ヨ  
リ部隊所在地マテ第四條ノ例ニ依リ陸軍給與令第三十二表ノ旅費ヲ給ス

第九條 歸郷療養ヲ命シタル病院ハ當該傷疾、疾病者ノ所屬部隊並居住地官氏名及  
歸郷ヲ命シタル年月日ヲ現時所屬ノ師團監督部 師團ニ屬セサル者ハ並ニ現時本人  
ノ俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊へ通報スルモノトス 陸軍省經理局第三課

現時俸給其他ノ給與ヲ爲シタル部隊ニ在テハ前項ノ通報ニ依リ歸郷ヲ命セラレタ  
ル翌日ヨリ之カ支給ヲ止ム退職、免官、免役若クハ復職復隊ヲ命シタルトキハ其所  
屬部隊ヨリ直ニ之ヲ手當金支給ノ應ニ通報スヘシ

第十條 歸郷療養中死亡シタルトキハ其遺族若クハ親戚ヨリ郡區長若クハ市町村長  
ノ證明書式ヲ得テ歸郷ヲ命セラレタル病院へ届ケ出ヘシ但平時ノ姿勢ニ復シ歸  
郷ヲ命セラレタル病院閉鎖セル場合ニ在テハ第六條但書ニ同シ

第十一條 甲師團ノ歸郷療養者ノ居住地乙師團ノ所管ナルトキハ其手當金ノ支給ヲ  
乙師團監督部ニ請求スルコトヲ得此場合ニ在テハ本人ヨリ甲師團監督部へ願出テ  
甲師團監督部ハ其名籍ヲ乙師團監督部ニ移スモノトス

臨時陸軍中央金櫃部ヨリ手當金ノ支給ヲ受クヘキ者其居住地第一師管外トナルト  
キハ前項ノ例ニ準ス

第一號書式 用紙半紙

手當金請求書

一金何圓也

但歸郷療養手當金何年何月分(何年何月何日ヨリ何日迄ノ分)  
右御渡相成度候也



何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)何番地住  
何師團(軍)何部(隊)附

年月日

官氏

名印

何師團監督部(臨時陸軍中央金櫃部)

御中

右生存者ニ相違無之證明候也

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)長

年月日

氏

名印

注意

「支給應ノ所在地外ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ郵送スルモ妨ケナシ此場合ニ在テハ金額ノ送付ヲ受ケタルトキ直ニ受領證書ヲ郵送スルモノトス」

「支給應ノ所在地ニ居住ノ者ハ此請求書ヲ持參シ金額引替ニ受領證書ヲ差出スモノトス」

「以下金額受領ノトキハ前二項ニ準ス」

第二號書式 用紙半紙

證明書

府(縣)郡(區)(市)町(村)番地

陸軍何兵何等卒 氏 名

右ハ何年何月何日何々ノ爲メ診ヲ請フニ依リ之ヲ診スルニ當時ノ症狀何々依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過云々治療(死亡ノモノハ遂ニ何々ニ依リ何月何日死(亡ト)セシモノニシテ既往何々ノ傷痍(症狀ハ成ルヘ)再發シタルモノト診斷ス而シテ右治療中ニ消費シタル入院料(診察料、藥價)ハ別紙明細書ノ如シ(別紙ハ適宜テ金額内譯ヲ詳記)シ署名捺印スヘシ)前書之通證明候也

府(縣)郡(區)(市)町(村)番地

醫師(何病院主任)醫

年月日

氏

名印



第三號書式 用紙半紙

請求書

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)何番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官氏 名印

右何年何月何日歸鄉療養ヲ命セラレ候處何月何日創傷(病症)再發何月何日治療(死亡)候ニ付右加療ノ爲メ金何程ヲ費シ候間陸軍軍人軍屬歸鄉療養者給與規則第五條ニ依リ該費下付相成度別紙醫師證明書相添及請求候也

右

年月日

氏 名印

(死亡者ニ在テハ遺族署名捺印スヘシ)

何陸軍豫備病院(何衛戍病院)

御 中

第四號書式 用紙半紙

死亡届

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)何番地住

何師團(軍)何部(隊)附

官氏 名

右何年何月何日歸鄉療養命セラレ候處何々ニ依リ何月何日致死去候間此段及御届候也

右遺族(親戚)

年月日

氏 名印

何陸軍豫備病院(何衛戍病院)

御 中

前書之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)(市)何町(村)長

年月日

氏 名印



●勅令第六十四號 (明治廿七年九月七日)

第一條 陸海軍雇員、軍艦乗組備人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道従事員其他陸海軍備人等ニシテ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ之ニ原因シ死歿シタルトキハ本令ニ依リ一時限リ手當金ヲ給ス

戰地ニ非ラサルモ出征事務ニ關シ公務ノ爲メ死傷シタルトキ亦前項ニ同シ

第二條 傷痍疾病手當金ハ軍人恩給法第九條ニ掲クル各事項ニ準シ別表各項ニ依リ之ヲ給ス

傷痍疾病ニシテ軍人恩給法第九條第一乃至第六ノ事項ヨリ輕キ者ニハ別表第七項ノ金額ヲ給ス

第三條 左ニ掲クル者ニハ別表ノ甲額ヲ給ス

- 一 雇員又ハ軍艦乗組備人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道従事員ニシテ其ノ職務ト官ニ準スヘキ者
- 二 臨時兵務ニ服スル者

第四條 左ニ掲クル者ニハ別表ノ乙額ヲ給ス

- 一 雇員、軍艦乗組備人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道従事員ニシテ其ノ職務下士ニ準スヘキ者
- 二 雇員ニシテ月俸十五圓以上ヲ受クル者

第五條 左ニ掲クル者ニハ別表ノ丙額ヲ給ス

- 一 雇員、軍艦乗組備人、官用船舶ノ船員若クハ鐵道従事員ニシテ其職務卒ニ準スヘキ者
- 二 雇員ニシテ月俸十五圓未滿ヲ受クル者

第六條 第四條第二及第五條第二ノ月俸額ハ日給ヲ受クル雇員ニ在テハ日給ノ三十分トス

第七條 常時備人ニハ別表ノ丁額ヲ臨時備ニハ戊額ヲ給ス

第八條 軍艦乗組備人ニハ第三條乃至第五條ノ金額ノ外仍各本額ノ四分ノ三ヲ増給ス



第九條 扶助料又ハ弔祭料ハ別表ニ依リ死者ノ遺族ニ給ス但既ニ傷痍又ハ疾病手當金ノ給與ヲ受ケタル者ノ遺族ハ此限ニアラス

第十條 軍艦乗組傭人若クハ臨時兵務ニ服スル者ヲ解放スルトキハ其勤勞ニ依リ慰勞金トシテ各給料二箇月分以内ノ金額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 第一條第二項ニ該ル者ノ區域及第二條傷痍疾病ノ等差並ニ第三條第四條第五條ノ士官下士卒ニ準スハキ職務ノ區分ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

死歿傷痍疾病手當金表

區分	死		傷							疾		病	
	用祭料	遺族扶助	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
甲	三十圓	百二十圓	百五十圓	百三十圓	百二十圓	百十圓	百圓	九十圓	九十圓	八十圓	八十圓	八十圓	
乙	二十五圓	百圓	百十五圓	百十圓	百圓	九十圓	八十圓	七十圓	七十圓	六十圓	六十圓	六十圓	
丙	二十圓	八十圓	百圓	九十圓	八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	五十圓	四十圓	四十圓	四十圓	
丁	十五圓	六十五圓	七十五圓	六十五圓	六十圓	五十圓	四十五圓	三十五圓	三十五圓	二十五圓	二十五圓	二十五圓	

備考 傷痍者ノ治療費ハ總テ官給トス若シ自己治療ヲ許可シタルトキハ治療費トシテ金三十圓以内ヲ支給スルコトヲ得

●海軍省令第七號 (明治二十七年七月二日)

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令

第一章 總則

第一條 海軍豫備役後備役下士卒臨時召集ハ戰時若クハ事變ニ際シ鎮守府司令長官ヲシテ行ハシムルモノトス

第二條 臨時召集ハ時トシテ同時ニ全豫備役若クハ全後備役下士卒ヲ召集スルコトナク時ノ形勢ニ應シ所要ノ人員ノミヲ召集スルコトアルヘシ但此ノ場合ニ於テハ特ニ明治何年何月何日以後ニ現役ヲ離レタル者ヲ召集スヘキノ令アルモノトス

第三條 臨時召集地ハ常ニ各豫備役後備役下士卒ノ兵籍ヲ管スル鎮守府海兵團トス

第四條 臨時召集ニハ召集令狀ヲ發スルモノトス

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令



第五條 臨時召集ノ發令アリタルトキハ各當事者ハ晝夜ヲ分タス其ノ事務ヲ處理スヘキモノトス

第二章 召集ニ關スル平常ノ準備

第六條 召集令狀様式第一ハ其ノ封筒様式第二及領收證様式第三ト共ニ海兵團ニ於テ之ヲ調製シ豫メ之ヲ島廳郡區市役所ニ送附シ島廳郡區市役所ニ於テハ之ヲ海軍豫備役(後備役)下士(卒)名簿ニ照シ合セ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アル迄之ヲ保管シ且豫備役後備役下士卒身上ニ異動アル毎ニ適當ノ訂正ヲ施スヘシ

第七條 海兵團ニ於テハ前條ノ召集令狀ノ外ニ尙ホ旅費交附時日證票様式第四ヲ作り召集令狀ト共ニ島廳郡區市役所ニ送附シ置クヘシ

旅費交附時日證票ハ實際ノ旅費ヲ交附シタル時日ヲ證明スルノ用ニ供スルモノニシテ島司郡長及市ノ收稅署長ハ各自ニ旅費ヲ交附スルト同時ニ該票ニ其ノ月日時ヲ記入スヘキモノトス

第八條 豫備役後備役下士卒他ノ島郡區市ニ轉籍シタルトキ及海軍省令第六號ノ許

可ヲ得タルトキハ其ノ者ノ召集令狀及旅費交附時日證票等ハ其ノ都度速ニ之ヲ轉籍若クハ應召地ノ島廳郡區市役所ニ轉送スヘシ

第九條 北海道廳及各府縣ニ於テハ召集ニ應スル豫備役後備役下士卒休泊ノ爲メニ豫メ鎮守府ニ到ル沿道便宜ノ地ニ於テ海軍軍用旅舍ヲ撰定シ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ但本條ノ旅舍ヲ撰定スルハ約束ヲ以テ定ムルモノトス

第十條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著スルトキ之ニ被服、食器ヲ給與シ私服ヲ格納シ補充隊ヲ編制シ又ハ直ニ兵員ヲ要スル艦船隊廳等ニ勤務ヲ命スル等ノ方法ハ豫メ鎮守府ニ於テ之ヲ定メ事ニ當テ混雜ノ憂ナキヲ期スヘシ

第十一條 臨時召集ニ關セル達文、通知書等第十三條第十、四條等參看ハ各當事者ニ於テ豫メ簡明ナル文案(電報案共)ヲ定メ且成ルヘク之ヲ關係ノ官廳役場等ニ通知シ置クヘシ

第十二條 島廳郡區市役所ニ於テハ管地内在籍ノ豫備役若クハ後備役下士卒ノ人員、地形等ニ應シ召集令狀ヲ配達スルニ最モ便宜且迅速ナル方法ヲ豫定シ置クヘシ

第三章 召集手續



第十三條 豫備役若クハ後備役下士卒臨時召集ノ令アリタルトキハ鎮守府司令長官ハ之ヲ其ノ部下ニ達シ且同時ニ北海道廳長官、府縣知事、憲兵司令官東京外ニ於テ、ハ憲兵隊長以下皆同シ警視總監、大審院長、控訴院長、地方裁判所長、檢事總長、檢事長及檢事正ニ通知スヘシ

第十四條 北海道廳長官、府縣知事ハ前條ノ通知ニ從ヒ之ヲ島司郡區市長及警察署長ニ達シ警視總監ハ同條ノ通知ニ從ヒ之ヲ警察署長ニ達スヘシ

第十五條 憲兵司令官ハ第十三條ノ通知警察署長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ各部下ノ憲兵、警部、巡查ヲシテ左ノ件々ヲ執行セシムヘシ但憲兵隊ヲ置ケル府縣ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部、巡查ハ之ヲ補助シ憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警部、巡查專ラ之ヲ擔任スヘシ

- 一 召集ニ應ヌヘキ各豫備役若クハ後備役下士卒ノ家ニ到リ遲滯ナク發足セシヤ否ヤヲ調査シ若シ故ナク猶豫スル者アルトキハ速ニ發足ヲ督促スルコト
- 二 船舶所有主ノ家若クハ會社等ニ到リ港内碇泊ノ船舶乘組員中ニ豫備役若クハ

後備役下士卒ノ有無ヲ質シ若シ其ノ之レ有ルヲ知ラハ其ノ船舶ニ到リ之カ發足ヲ督促スルコト

- 三 豫定ノ海軍軍用旅舎ニ到リ「海軍軍用旅舎」ト記シテ表出セシムルコト
- 四 鎮守府ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場、停車場及波止場ニ出張シテ旅行ノ便宜ヲ與フルコト

五 旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト

六 憲兵屯所、同分屯所、警察署、同文署、巡查派出所其ノ外公衆ノ注目シ易キ場所ニ警報様式第五ヲ揭示スルコト

第十六條 島司郡長ハ第十四條ノ達ニ從ヒ之ヲ町村長ニ達シ且召集令狀中ニ年月日旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲ記入シ之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ  
區長及市長ハ同條ノ達ニ從ヒ召集令狀中ニ年月日ヲ記入シ且其市ノ收稅署長（府縣知事ニ於テ定メタル者）ト協議シ旅費支給ヲ始ムル時日及場所ヲモ記入シ區長長ハ此ノ時又其ノ保管セル旅費交附及市之日證票ヲ收稅署長ニ交附スヘシ之ヲ各自ニ配達シ其ノ領收證ヲ徴スヘシ



本條ノ召集令狀ヲ配達スルニ當テ本人其ノ家ニ在ラサルトキハ其ノ家族親族若クハ召集通報人ニ之ヲ交附シテ其ノ領收證ヲ徴スヘシ

島廳郡區市役所町村役場ニ於テモ召集發令ニ從ヒ其ノ揭示場ニ之カ警報様式ヲ揭式第五ヲ掲クヘシ

第十七條 召集令狀ノ領收證ハ島司郡區市長之ヲ取纏メ務メテ速ニ海兵團長ニ送附スヘシ

第十八條 豫備役若クハ後備役下士卒既ニ召集令狀ヲ領收セシトキハ二十四時間以内ニ發足シ旅費支給ヲ始ムル令狀ノ裏面ニ於テ指示サレタル旅費支給場所ニ到リテ旅費及旅費交附時日證票ヲ受領シ一日行程少クトモ十二里沿道ニ汽車汽船ノ便アル者ハ里數ニ拘ラス之ニヲ以テ旅行シ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歷表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

召集地ニ到ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其ノ事由ト延滞セル時日ヲ記シ疾病ナレハ醫汽車ノ事故ナレハ師ノ診斷書驛

長若クハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其ノ地ノ憲兵、警察官、島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノトキ之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ

第十九條 豫備役若クハ後備役下士卒海兵團ニ參著シタルトキハ海兵團長ハ其ノ召集令狀ヲ引揚ケ履歷表ヲ點檢シ身體ヲ檢査シ終テ之ニ被服、食器ヲ給シ私服ヲ格納シ或ハ之ヲ補充隊ニ編制シ或ハ所要ノ艦船隊應ニ勤務ヲ命スル等鎮守府司令長官ニ於テ豫メ定メタル方法ニ依リ處分スヘシ但身體檢査ニ於テ到底兵役ニ堪ヘスト認ムル者アルトキハ其ノ兵役ヲ免シ旅費ヲ給シテ歸郷セシムヘシ

第二十條 召集令狀配達ヲ受クルトキ豫備役若クハ後備役下士卒犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラス二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其ノ事由ヲ詳記シ憲兵憲兵隊ヲ置カサル府縣ニ於テハ警察官ノ證認書及市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ島司郡市長ヲ經テ海兵團長ニ届出ツヘシ其ノ召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ



本條ニ當ル下士卒ノ召集令狀ハ前項ノ届書ヲ差出ストキ之ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十一條 豫備役若クハ後備役下士卒召集令狀ヲ受領セルトキ傷痍疾病若クハ病後ニテ二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應スル能ハサルトキハ其ノ届書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且其ノ召集令狀ヲ島司郡區市長ニ返附スヘシ

第二十二條 第二十條及第二十一條ノ豫備役若クハ後備役下士卒傷痍疾病快復若クハ犯罪旅行等ノ事故止ミタルトキハ速ニ島廳郡區市役所ニ到リ召集令狀ヲ受取り且其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取り直ニ本籍海兵團ニ參著シ召集令狀履歴表及旅費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

第二十三條 召集ノ期ニ遅ル、者アルトキハ海兵團長ハ第十七條ノ召集令狀ノ領收證第二十條第二十一條ノ届書第十八條第二項ノ旅行延滞事由書及旅費交附時日證票等ヲ參考トシテ其ノ事由ヲ糾問シ懲罰ニ該ル者ハ直ニ之ヲ處分シ刑法ニ該ル者

ハ海軍治罪法ニ從ヒ其ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十四條 召集ノ事一應其ノ局ヲ結ヒシトキハ海兵團長ハ不參ノ人名表ヲ作り各自姓名ノ上ニ不參事由ヲ記シ鎮守府司令長官ニ差出シ鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

附則

第二十五條 臨時召集ニ關スル旅費支給ノ準備、手續等ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本令ニ於テ町村長トアル場合ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長トス

様式第一 曲尺六寸

召集令狀	
(何)備役	(姓)名
召集ヲ命ヌ	海軍(何官職)
明治(何)年(何)月(何)日	

表

里以四ヤ

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令



(何) 鎮守府 團

召集令狀ニ對スル心得

- 一 旅費ハ來日午後時ヨリニ於テ支給スヘシ
- 二 此令狀ヲ受取タルトキハ必ス二十四時間以内ニ發足シ印形履歴表ヲ持參スルヲ前記ノ場所ニ到リ旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ忘ルヘカラス
- 三 旅費ヲ受取ルトキ一日行程少クトモ十二里計沿道ニ汽車汽船ノ便此令狀ヲ示スヘシ
- 四 費交附時日證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ
- 五 發足ノ節ハ前記ノ印形履歴表ノ外ニ私服ヲ包ム爲メニ風呂敷ノ類ト之ニ附スル姓名札成ル可ク木又ハ革等ニテヲモ持參スヘシ
- 六 召集地ニ到ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若クハ疾病川支等ノ爲メニ旅行ノ延滞ヲ生シタルトキハ其事由ト延滞セル時日ヲ記シナレハ醫師ノ汽車ノ事故ナレハ驛長若クハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長、事務長若クハ會社、川支等ナレハ其地ノ憲兵警察官島司郡區市長若クハ町村長ノ證印ヲ受ケ參著ノ時之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ

裏

五 此令狀ヲ受取リタルトキ傷病疾病若クハ病後ニテ到底二十四時間以内ニ發足シ能ハサルトキハ其事由書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ島司郡區市長ヲ經テ之ヲ海兵團長ニ届出テ且此令狀ヲ一先ッ島司郡區市長ニ返附シ置キ快愈ニ至ラハ速ニ之ヲ前記ノ手續ニ依テ届出テ且直ニ島廳郡區市役所ニ到リ再ヒ令狀旅費及旅費交附時日證票ヲ受取リ(一)ニ記セル如ク海兵團ニ到ルヘシ。

樣式第一

曲尺六寸二分

此召集令狀ノ配達ヲ受ケタルトキ名宛ノ本人犯罪失踪旅行寄留等ニテ家ニ在ラヌ二十四時間以内ニ發足シテ召集ニ應セシムル能ハサル者ハ家族親族若クハ召集通報人其事由ヲ詳記シ憲兵憲兵隊ヲ置カサル府ノ證認及市町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡區市長ヲ經テ海兵團長ニ届出ツヘシ

召集令狀ハ之レト同時ニ島司郡區市長ニ返附スヘシ

其召集令狀受領後逃亡セル者アルトキモ亦同シ

何府(縣)何郡(區)何(町)村何番地

(何)備役

海軍(何官職) (姓) (名)

曲尺四寸二分

此處へ赤キ紙片ヲ貼附スシ

嚴召集令狀在中

封筒糊封スヘカラス

海軍豫備役後備役下士卒臨時召集令







様式第五

警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事  
特ニ明治(何)年(何)月(何)日以後現役ヲ離レタル者ヲ召集スルノ令アリタルトキハ之ヲ明記スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

●海軍省令第八號 (明治二十七年七月二日)

海軍臨時召集旅費支出規程

第一條 海軍臨時召集旅費ハ島司郡長北海道函館區及札幌區ハ區長以下同シ市長ニ於テ毎年三月一日

現在スヘキ其管内在住ノ海軍豫備後備ノ臨時應召員ヲ豫定シ之ニ要スル召集旅費ヲ計算シ召集旅費概算表ヲ作り三月三十一日マテニ所轄鎮守府海兵團ヘ差出スヘシ

シ鎮守府海兵團ハ前項概算表ノ金額ヲ調査シタル後鎮守府監督部ニ送付ス鎮守府監督部ハ該金額人員ノ合計表ヲ調製シ海軍省ニ届出テ概算表ハ海軍司計部ニ交付スヘシ

海軍省ハ毎年一回海軍臨時召集旅費概算表ヲ作り大藏省ニ送付ス此ノ概算表ハ翌年四月三十日マテ有効ノモトトス

第二條 北海道廳長官府縣知事ハ前條召集旅費ヲ應召者ニ給與スル爲メ便宜ノ地ヲ選定シ其ノ市町村名及第六條第一項ノ現金前渡ヲ受ケ仕拂ヲナスヘキ島司郡長若シハ收稅署長ノ官職姓名ヲ取調當該鎮守府監督部ニ豫メ通牒シ置キ爾後該吏員變更アルトキハ其時々通牒スヘシ

鎮守府監督部長前項ノ通牒ヲ受ケタルトキハ即時當該海軍司計部ニ通知シ又海軍省ニ報告スヘシ

第三條 海軍省ハ第一條ノ届書ニヨリ平時ニ於テ豫メ臨時召集旅費ノ豫算要求書及仕拂豫算計算書ヲ調製シ置キ戰時若クハ事變ニ際シ大藏省ヲ經テ要求書ノ裁定ヲ



得即時電信其他ノ方法ヲ以テ鎮守府監督部ヲ經テ海軍司計部ヘ配付豫算ヲ令達スヘシ

第四條 鎮守府監督部ハ前條ノ令達ニ接シタルトキハ臨時召集概算表ノ金額ヲ目的トシ現金前渡ヲ受クヘキ官吏ヘ旅費金額送付方ヲ當該海軍司計部ニ請求スヘシ

第五條 海軍司計部ハ前條ノ請求ヲ調査シ直ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發行スヘシ

第六條 現金前渡ヲ受クヘキ官吏ハ島司郡長收稅署長トス

島司郡長若クハ收稅署長前條ノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ出納官吏現金取扱規則ニ依リ現金ヲ取扱ヒ其ノ管内召集ニ應スヘキ豫備後備在住軍人ニ對シ各自ニ召集地ニ到ル定則ノ旅費ヲ支給スヘシ

臨時召集旅費支給ニ係ル事務ハ最モ迅速ヲ要ス故ニ出納官吏タルモノ現金前渡ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ分タス處辨スヘシ

第七條 島司郡長若クハ收稅署長ハ召集終レハ會計檢査院ニ提出スヘキ仕拂計算書及證據書類ヲ當該海軍司計部ニ送付スヘシ

廿七年七月海軍省令第十號參看

第八條 應召員ニシテ行程ノ便宜ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケスシテ直ニ召集地ニ參着シタルトキハ所轄鎮守府海兵團ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得此場合ニ於テハ海兵團ヨリ當該現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ其旨ヲ通牒スヘシ

第九條 演習召集旅費モ此規程ニ準據シ取扱フヘシ

附則

第十條 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス但第一條ノ召集旅費概算表ハ本年ニ限り本規程到達ノ日ノ現在員ニ依リ取調一週日內ニ所轄鎮守府海兵團ニ差出スヘシ

●海軍省訓令第一號 (明治二十七年十一月八日)

北海道廳 府縣

本年七月海軍省令第八號海軍臨時召集旅費支出規程ニ依リ出納官吏ニ係ル左ノ件々ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

一 出納官吏事故ニ依リ代理ヲ要スルトキ其代理者ノ命免



二 會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ依リ要スル検査員立會員若クハ計算書調製セシムヘキ官吏ノ任命

●海軍省令第六號 (明治二十七年七月二日)

海軍豫備役後備役下士卒中寄留地又ハ乗組船舶ノ船籍港等ニ於テ召集ニ應セントスル者ノ願届手續左ノ通定ム

一 豫備役及後備役下士卒他廳府縣ニ寄留スル者其ノ地ニ戶籍ヲ有スル者ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ奥書證印ヲ受ケ豫メ本籍鎮守府海兵團長ニ願出其ノ許可ヲ受ケヘシ但本項ノ許可ヲ得タルトキハ其ノ寫ニ寄留地市町村長(市制町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ノ奥書證印ヲ受ケ原籍地ノ町村長(町村制ヲ施行セサル地ハ區戶長)ヲ經テ郡長ニ島嶼ハ島司ニ市制施行地ハ直ニ市長ニ北海道函館區及札幌區ハ直ニ區長ニ届出且寄留地郡長島司ニモ届出ツヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ寄留地若シ他鎮守府志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

一 豫備役及後備役下士卒海員トナリテ船舶乗組中ノ者ハ願ニ依リ其ノ船舶ノ船籍港若クハ平常運航ノ一港ニ戶籍ヲ有スル豫備役後備役下士卒ト同一ノ手續ニ依リ召集ニ應ヌルコトヲ得但其ノ願届ノ手續ハ前項ノ例ニ從フヘシ

本項ノ場合ニ於テハ召集ノ令アリシトキ之ヲ通報スヘキ者ヲ定メ(陸上ニ在ル者ニシテ船舶所有者若クハ其ノ代理人等最モ良シ)本項ノ願書中ニ其ノ者ノ住所姓名ヲ記入シ其ノ者ノ捺印ヲ受ケヘシ

本項ノ許可ヲ得タル者其ノ召集ニ應ヌル港地若シ他鎮守府ノ志願兵徵募區ニ屬スルトキハ兵籍モ亦其ノ鎮守府ニ移ルモノトス此ノ場合ニ於テハ本籍鎮守府海兵團長ヨリ該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ



●海軍省訓令第五十號 (明治二十年五月)

徵兵令ニ依リ徵集シタル海軍現役ニシテ身上異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別ナク戸主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡區戸長與書證印シ横須賀鎮守府へ届出スヘシ

●海軍省令第六號 (明治二十一年五月十五日)

海軍豫備兵歸家シタルトキハ其日ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出戸長ハ之ヲ郡區長ニ届出可シ

海軍豫備兵後備兵外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其事由ヲ詳記シテ戸長ノ與書證印ヲ受ケ鎮守府海兵團へ願出許可ヲ得可シ

鎮守府海兵團ニ於テ前項ノ願ヲ許可シタルトキハ之ヲ郡區役所ニ通知ス可シ

海軍豫備兵後備兵轉籍寄留又ハ失踪犯罪其他身上ノ異動アルトキハ戸長ノ與書證印ヲ受ケ戸主本人戸主ニシテ失踪犯罪其他ニテヨリ速ニ鎮守府海兵團へ届出郡區長ニハ其寫ヲ以テ届出可シ

廿一年九月省令第十五號參看

各郡區役所ニ於テハ豫備役兵名簿後備役兵名簿ヲ備へ置キ身上異動アル毎ニ記入シ置ク可シ

●勅令第八十七號 (明治二十五年十月六日)

海軍軍人結婚條例

第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受シヘシ

第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス

第三條 現役下士ハ年齢滿二十五歲以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス

現役卒ハ年齢滿二十五歲以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス

第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歲以上ナルヲ要ス

附則

海軍々人結婚條例



第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

●海軍省令第二號 (明治二十五年十月七日)

海軍一般

北海道廳 府縣

海軍々人結婚願出手續

第一條 海軍々人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ依リ將官並相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

書式

結婚願

何府縣何國何郡市區何町村何番地  
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

年月日

官(職) 姓 名 印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓名 印

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地  
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月



右ハ行狀端正ニシテ年齢前書ノ通相違無之候此段保證候也

年 月 日

何府縣何國何郡市區何町村長 姓名 印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長

官ニ届出ヘシ

●勅令第五十六號 (明治二十二年四月二十九日)

海軍下士服役條例

第一條 海軍下士ノ服役ヲ分テ現役及豫備役トス

第二條 現役ハ六箇年ニシテ下士ニ任シタル日ヨリ之ニ服シ豫備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル日ヨリ之ニ服ス

卒ノ服役年數ヲ通算シ現役十二箇年以上十六箇年未滿ノ者ハ現役ヲ通算シテ滿十六箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

卒ノ服役ヲ通算シテ現役滿十六箇年ヲ過タル者ハ兵役ヲ免ス

第三條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四條 現役中ハ免役ヲ願フコトヲ許サス但家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ本人ヲ要スルトキハ父母父母ナキトキハ親族若クハ近隣二人以上ノ願ニ依リ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムル

コトアル可シ服役中養子分家又ハ絶家廢家再興他家相續人トナルタメ本文ノ事故ヲ生シタル者ハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ豫備役ニ入りタル者ハ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム

第五條 現役中傷疾若クハ疾病ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免シ豫備役ニ服セシム

第六條 現役中傷疾若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者其役ヲ免ス

第七條 服役期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習ノ舉



アルトキ又ハ航海中ハ其期限ヲ延ハスコトアル可シ

第八條 下士ノ服役ヲ退キタルトキハ其官ヲ免スルモノトス

附則

第九條

第十條 艦内教授警吏ニシテ現役滿六箇年ヲ過キタル者ハ其役ヲ免シ現役ヲ通シテ十箇年ニ至ルマテ豫備役ニ服セシム現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免ス

●海軍省令第三號 (明治二十九年三月二十八日)

望樓長望樓手任用試験規則

第一條 望樓長望樓手ヲ志願スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ願書第一號 書式第二號 履歷書第三號 式ヲ添ヘ海軍省ニ差出スヘシ

第二條 試験ハ分テ身體檢査及學術試験ノ二トス學術試験ハ身體檢査ニ合格シタル者ニアラザレハ行ハス

第三條 望樓長ノ學術試験科目ハ左ノ如シ

讀書 漢字交

作文 通俗

算術 四則ヨリ 比例マテ

電信術

各國ノ國旗並軍艦旗ノ識別

望樓手ノ試験科目ハ前項ヲ適用ス但其ノ問題ハ難易ノ別アルモノトス

第四條 試験委員ハ東京ニ常置ス

第五條 試験ハ東京又ハ鎮守府所在ノ地ニ於テ之ヲ行フ

第六條 鎮守府所在ノ地ニ於テ試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ其ノ受験者ノ氏名ヲ當該鎮守府司令長官ニ通報ス

第七條 鎮守府所在ノ地ニ於テ身體檢査ヲ行フトキハ鎮守府司令長官其ノ部下ノ軍醫官ニ命シ之ヲ行ハシム

第八條 鎮守府所在ノ地ニ於テ學術試験ヲ行フトキハ試験委員長ヨリ密封ヲ以テ問題書ヲ鎮守府司令長官ニ送附ス鎮守府司令長官ハ望樓監督官及其ノ他ノ者ニ命シ指定ノ時期ニ試験ヲ施行セシメ其ノ應答書ハ密封ヲ以テ之ヲ試験委員長ニ送附ス



第九條 望樓長望樓手任用令第四條ニ依リ任用セラレント欲スル者ハ願書第二號ニ履歷書第三號ヲ添ヘ附近ノ鎮守府ニ差出スヘシ

第十條 鎮守府ニ於テ前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ望樓監督官ヲシテ之ヲ調査セシメ意見ヲ附シ司令長官ヨリ海軍大臣ニ進達スヘシ  
第一號書式 (用紙美濃紙ニツ折一通)

望樓長(望樓手)任用試験願

氏 名

何年何月何日生  
年號月何年何箇月

本籍  
現住所

氏 名 印

年月日  
海軍省  
御中

私儀望樓長(望樓手)任用試験相受度履歷書相添此段奉願候也

第二號書式 (用紙美濃紙ニツ折一通)

望樓長(望樓手)任用願

氏 名

何年何月何日生  
年號月何年何箇月

私儀望樓長(望樓手)志願ニ付望樓長望樓手任用令第四條ニ依リ任用相成度履歷書相添此段奉願候也

本籍  
現住所

氏 名 印

年月日  
海軍大臣宛

第三號書式 (用紙美濃紙ニツ折一通)

履歷書

何府縣華士族平民  
戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍

氏 名



海軍兵學校條例

三五四

何年何月何日生  
年號月何年何箇月  
一 本籍(國郡市區町村番地ヲ詳記シ寄留ノ者ハ寄留地ノ住所ヲモ記スヘシ)  
一 現住地(右ニ同シ)

一 職業技藝等

一 官廳會社等ノ職務ニ從事シタル事(豫備後備海軍准士官及下士卒ハ其ノ奉職中ノ事歴ヲ詳記スヘシ)

一 賞罰

一 破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケヌ(身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケント雖辨償ヲ完了セリ)

前書相違無之候也

何府縣何國何郡市區何町村

年月日

市區町村長 本籍ノ市 區町村長 氏

名 印

勅令第二百十七號

(明治二十六年十一月二十九日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

廿七年九月勅令第九百六十九號參看

廿九年九月勅令第九百三十四號參看

但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 海軍少將若シハ大佐

副官 海軍大尉

教頭 海軍大佐

砲術教官 海軍少佐

同 海軍大尉

水雷術教官 海軍少佐

同 海軍大尉

運用術教官 海軍少佐

同 海軍大尉

航海術教官 海軍少佐

同 海軍大尉

機關術教官 海軍機關少監

同 海軍大機關士

普通學教官 海軍教授

監事長 海軍少佐

監事 海軍大尉

海軍兵學校條例

三五五



軍醫長  
主計長

海軍軍醫少監  
海軍大主計

前項ノ外海軍大軍醫、少軍醫、大主計及少主計ヲ置ク

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 第五條第二項ニ掲クル軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 第五條第二項ニ掲クル主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十七條 第五條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍書記

海軍卒

第十八條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス







- 第一條 校長ハ教育上ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ教頭教官中ヨリ指名會同シ會議ヲ開キ之ヲ審議決定スヘシ
- 第二條 校長ハ海軍兵學校條例第二十三條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 校長ハ每學期及全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ生徒ノ學術品行等ノ實況ヲ審議シ其ノ優劣ヲ議決シ成績表ヲ調製ス可シ
- 第四條 校長ハ大試驗終末大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ教頭ノ意見書ヲ添ヘ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第五條 校長ハ每學期ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
- 第六條 校長ハ終末大試驗ニ及第シタル者ニ海軍大臣ノ認可ヲ得航海練習艦乗組ヲ命ス但練習艦ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受ク可シ
- 第八條 校長ハ監事軍醫官主計官若干名ヲ被服糧食委員ト爲シ生徒ノ被服糧食ニ關

スル事ヲ掌ラシムルコトヲ得

- 第九條 校長ハ夏季冬季休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得
- 第十條 校長ハ海軍大臣ノ認可ヲ得テ毎年十一月生徒ニ入校ヲ命ス
- 第十一條 副官ハ庶務及官印ノ監守ヲ掌ル
- 第十二條 教頭ハ教務ヲ整理シ學術及教授上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ
- 第十三條 教頭ハ試驗成績ニ意見ヲ附シ校長ニ差出スヘシ
- 第十四條 教官ハ學術上若クハ教授上ニ關シ意見アルトキハ教頭ニ開申スヘシ
- 第十五條 教官ハ試驗ヲ行ヒタルトキハ試驗成績ニ意見ヲ附シ教頭ニ出スヘシ
- 第十六條 監事長ハ生徒ノ容儀品行ヲ監督シ體育上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ校長ニ具申スヘシ
- 第十七條 監事長ハ生徒ニ犯罪者アルキハ之ヲ取調ヘ意見ヲ附シ校長ニ具申スヘシ
- 第十八條 監事長ハ每學期ノ終ニ於テ生徒ノ考科表ヲ校長ニ差出スヘシ



第十九條 監事長ハ准士官以下ノ勤怠ヲ監督シ犯則者アルトキハ之ヲ取調ヘ校長ニ具申スヘシ

第二十條 監事長ハ下士以下ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ擔任ス

第二十一條 兼務監事ハ生徒分隊ノ長ト爲リ隊員ノ身上ニ關スル一切ノ事ヲ監視シ志操ヲ養成スルヲ任トス

第二十二條 兼務監事ハ交番宿直ノ勤務ニ服ス

第二十三條 兼務監事ハ每學期ノ終ニ於テ隊員ノ考科表ヲ監事長ニ出スヘシ

第二十四條 専務監事ハ下士以下ヲ督勵シ紀律ヲ守ラシメ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且之ニ係ル事務ヲ掌理ス

第二十五條 生徒ハ分隊ニ編成ス

第二十六條 學期ハ四期トシ其ノ終ノ一期ハ航海練習艦ニ於テ教授ス學期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

第二十七條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨ

リ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス

第二十八條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年二月之ヲ告示ス

第二十九條 生徒ノ試験ヲ分チテ左ノ四種トス

一 小試験

二 大試験

三 終末大試験

四 卒業試験

第三十條 試験ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス

第三十一條 大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ學術優等ノ者ニハ本則第五十二條第一圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

大試験若クハ終末大試験ニ及第シタル者ニシテ品行殊ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第五十二條第二圖ノ賞牌及綬ヲ與フ

第三十二條 前條第一項ノ賞牌ヲ有スル者ニシテ大試験若クハ終末大試験ニ落第ス



ルカ若クハ第二項ノ賞牌ヲ有スル者本校生徒懲戒則又ハ海軍懲戒令ニ觸ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第三十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十四條 大試験、終末大試験及卒業試験ノ成績表ニハ各學科ノ得點及席次ヲ掲載シ且品行點ヲ記入スルモノトス但品行點ハ席次ニ關係スルコトナシ

第三十五條 小試験ハ一學期ヲ適宜三回以上ニ分チ執行スルモノトス但シ第四學期ニハ小試験ヲ行ハス

第三十六條 一學期間ノ小試験得點ハ之ヲ其ノ期大試験若クハ終末大試験ノ得點ニ合算ス

大試験ノ全點ハ其期各小試験ヲ通シタル合全點ト同數タル可シ

第三十七條 病氣其ノ他己ムヲ得サル事故アリ小試験ニ缺席スル者ハ別ニ試験ヲ行ハス而シテ大試験若クハ終末大試験成績ニ加フルニハ本科ハ大試験若クハ終末大試験ノ科目中ニアル該小試験ニ當ル細目ノ點數ヲ以テシ普通科ハ大試験若クハ終末大試験得點ヲ該一學期間ノ小試験回數ニテ除シタルモノヲ以テス

第三十八條 大試験ハ第一期第二期ノ終ニ於テ行フモノトス

第三十九條 大試験ニハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十條 大試験成績表ニ掲クル點數ハ大試験得點ト該一學期間小試験ノ得點トヲ合セ二分シタルモノトス

第四十一條 終末大試験ハ第三期ノ終ニ於テ行フモノトス

第四十二條 終末大試験ニハ本科ハ三學期中ニ教授シタル學科ヲ試験シ普通科ハ一學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十三條 終末大試験成績表ニ掲クル點數ハ本科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大小試験得點ヲ加ヘ二分シタルモノトシ普通科ニ在テハ前二期ノ大試験成績點數ニ終末大試験成績點ヲ加ヘタルモノトス但終末大試験ニ於ケル本科全點ハ前二期大試験合全點ニ第三期小試験合全點ヲ加ヘタルモノト同數タル可シ

第四十四條 卒業試験ハ全學期ノ終ニ本校ニ於テ行フモノトス但航海術ノ實測ハ別



ニ試験ヲ行ハヌ而シテ其ノ點數ハ練習中ニ得タル點數ヲ卒業試験成績ニ加フルモノトス

第四十五條 卒業試験ニハ第四學期中ニ教授シタル學科ヲ試験ス

第四十六條 卒業試験官ハ本校教官中ヨリ校長之ヲ命ス但試験問題ハ校長練習艦長ト協議ノ上定ムルモノトス

第四十七條 卒業試験ノ成績表ニ掲クル點數ハ卒業試験得點實測點數ニ終末大試験ノ成績點數ヲ加ヘタルモノトスモ含有ス

卒業試験全點ハ終末大試験ニ於ケル本科全點ノ半數トス但航海術全點數ノ三分ノ二ハ實測點數ニ充ツ

第四十八條 大試験若クハ終末大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ニハ一學期ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フモノトス  
傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ヲ受クルコト能

ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第四十九條 前條ノ延期ハ一學期ニ止マルト雖トモ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第五十條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験又ハ終末大試験若クハ卒業試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第五十一條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附属ス

第五十二條 本則第三十一條ニ掲クル賞牌及綬ノ制式ハ左圖ノ如シ但賞牌ハ佩用スルモノニアラス綬ノミ上衣右乳部ノ下方ニ附著スルモノトス (圖畧ス)

●勅令第二百十八號 (明治二十六年十一月二十九日)

海軍機關學校條例

海軍機關學校條例



第一條 海軍機關學校ハ之ヲ横須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ並ニ海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス

第二條 海軍機關學校ノ學科ヲ本科及專科ノ二種トス  
本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船、造機及造兵ノ三科ニ分チ本科卒業後其ノ科ニ特撰セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス

第三條 專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ヲ專科生トス

第四條 生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス  
但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

第五條 海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス

第六條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク  
校長 海軍機關大監  
副官 海軍大機關士  
教頭 海軍機關少監

廿七年九月勅令第百十七號  
參看  
廿九年九月勅令第百十五號  
參看

教官 海軍機關少監  
同 海軍大機關士  
同 海軍教授  
監事長 海軍機關少監  
監事 海軍大機關士  
軍醫長 海軍大軍醫  
主計長 海軍大主計  
前項ノ外海軍少軍醫及少主計ヲ置ク

第七條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第八條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第九條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第十條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十一條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス



第十二條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ専科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十三條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條 少軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ少主計長ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條 第六條ニ掲グル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍書記

海軍技手

第十八條 生徒ハ年齢十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試験ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所

要ノ人員ヲ採用ス

第十九條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

- 一 有妻ノ者
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
  - 三 復權ヲ得サル家資分散者及破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
- 第二十條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣之ヲ告示ス
- 第二十一條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第二十二條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第二十三條 生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
- 一 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 二 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 三 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者



第二十四條 専科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特撰ス

第二十五條 専科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第二十六條 海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附属セシム

第二十七條 機關工練習所ハ掌機工及掌罐工ト爲ルヘキ機關兵曹及機關兵ヲ教育スル所トス

前項ノ外海軍上等機關兵曹ニ須要ノ學術ヲ教授スルコトヲ得

第二十八條 機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 海軍機關少監

教官兼分隊長 海軍大機關士

第二十九條 機關工練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第三十條 機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第三十一條 分隊長ハ所長ノ命ヲ承ケ部下ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第三十二條 第二十八條ニ掲クル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等機關兵曹

海軍下士

海軍卒

第三十三條 機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス  
第三十四條 機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸

項ニ適合スル者タルヘシ

一 年齢三十五年未満ニシテ身體強健ナル者

二 一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス

三 品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌罐工タルニ堪フヘキ者



- 四 卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者
- 五 試験ニ合格シタル者
- 第三十五條 機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌罐工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試験ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ
- 前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌罐工ト稱ス
- 第三十六條 掌機工及掌罐工ニハ臂章ヲ附與ス
- 第三十七條 海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム
- 第三十八條 技手練習所ハ造船造機及造兵ノ技手出身志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス
- 第三十九條 技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 所長 海軍造船少監造兵少監造船大技士若クハ造兵大技士
  - 教官 海軍造船少監造兵少監造船大技士若クハ造兵大技士
  - 同 海軍造船技士若クハ造兵技士

廿七年十一月九日  
勅令第九十四號  
參看

- 第四十條 技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス
- 第四十一條 技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第四十二條 第三十九條ニ掲クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手ヲ置ク
- 第四十三條 技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
  - 一 年齢滿二十一年以上三十年未滿ノ者
  - 二 品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者
  - 三 海軍部内造船、造機及造兵ニ關スル工場ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者
  - 四 身體檢査及學術試験ニ合格シタル者
  - 五 卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者
- 第四十條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セヌ
  - 一 徵兵令第二十八條ニ該ル者



